

平成25年度8月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成25年8月6日（火）午前11時～午前11時40分

場所 市役所4階会議室

出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. 話題提供（5項目）

1 釧路市動物園の最近の動きについて

- 平成25年7月26日（金）に、ライオンのアキラ（オス6歳）とゆうき（メス5歳）の間に、釧路市動物園では29年ぶりとなるライオンが生まれました。
- 生まれた4頭のうち、2頭（オス1頭、メス1頭）は死産でしたが、残る2頭（オス）は母ライオンが育児し、元気に成長しています。公開及び愛称募集は母子ともに安定する1～2ヵ月後を考えています。
- 現在、キリン舎の改修工事と市民団体のチャイルズエンジェルさんが寄贈を予定しているキリンの観覧施設と放飼場（ほうしじょう）の改修工事を実施しています（8月中に完成）。
- 9月には、おびひろ動物園からオスのアミメキリン「スカイ」（1歳）が来園予定で、一ヶ月程度環境に慣らした後、10月中にお披露目したいと考えています。
- 10月にはチャイルズエンジェルさんと動物園が協働して、キリンの歓迎と動物園を盛り上げるためのイベントを開催する予定です。
- メスのキリンについて、現在交渉を進めているのは、東京都羽村市動物公園の「コハネ」（1歳）で、導入方法はブリーディング・ローン（繁殖貸与）を予定しています。導入時期はオスと同時期が望ましいと考えていますが、羽村市動物公園の意向も確認した上での対応となる予定です。

2 釧路市津波避難計画と新たな津波ハザードマップについて

- 東日本大震災の大きな津波災害を受けて、昨年6月、北海道では発生頻度は極めて低いものの発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波の浸水予測図を公表し、市町村に対して津波避難計画やハザードマップ作成を要請しました。

- この要請を受け、釧路市では数千年に一回程度発生すると想定される最大クラスの津波に関して、様々な対策を検討し、すぐに取りかかれるものから順次実施してきました。
- その一つとして、市民のみなさんが将来起こりうる津波災害の状況をしっかりとイメージし、家族や近隣の方と一緒に、家族版の避難計画の話し合いや、いざというときの迅速・適切な行動に役立てるために「津波避難計画」と「新たな津波ハザードマップ」の作成を進めてきたところです。
- 「津波避難計画」については、最大クラスの津波発生時に市民の皆さんの命を守ることを最優先に12万5千人の避難対象者に対して、14万5千人分の津波避難可能な施設（津波避難ビルも合わせると15万7千人分）を用意したほか、徒歩避難の原則を盛り込んでいます。
- また、大津波警報時において徒歩で避難することが困難な地域（釧路地域の星が浦南地区及び大楽毛南地区の一部、音別地域では音別地域の市街地全域、尺別及び直別地区の海岸部）を避難困難地域として指定しました。
- 同計画の素案は7月19日までパブリックコメント手続きを実施し、その結果を踏まえた「釧路市津波避難計画」を近くホームページで公表予定です。また、同計画については釧路市防災会議に諮り、釧路市地域防災計画に新たに設ける津波災害対策編に反映する予定となっています。
- 「津波ハザードマップ」については、想定津波による浸水範囲と深さの他、避難路と避難場所等の防災関連情報を掲載するものとなっており、8月19日（月）から31日（土）の間に、釧路地域、音別地域の各家庭に配付する予定です。
- 「津波避難計画」と「新たな津波ハザードマップ」に関する住民説明会を8月20日（火）から、釧路地域6か所、音別地域1か所で開催し、内容の周知を図るとともに住民の皆さんと意見交換を行います。
- 特に課題として認識している大津波警報時における避難困難地域については、住民説明会の中で災害時要援護者の方も含めた避難方法などに関して、地域の皆さんのご意見を伺い、その後、地域の実情に応じた避難方法を検討していきたいと考えています。

3 世界自然遺産シンポジウムの開催について

- 『マリモの阿寒湖を世界自然遺産へ』の取り組みの機運を市民の皆さんと高めるため、世界自然遺産シンポジウムを開催します。

【世界自然遺産シンポジウム】

日時 平成25年8月24日（土）午後1時～午後5時

場所 釧路市観光国際交流センター 大ホール

内容 ・基調講演テーマ「阿寒湖、マリモ、世界遺産」

講師 岩槻邦男氏（兵庫県立人と自然の博物館名誉館長、東大名誉教授）

・パネルディスカッション

テーマ 「マリモの阿寒湖」の世界自然遺産登録に向けて

パネリスト

午来 昌氏（元斜里町長）

中山隆司氏（環境省自然環境局生物多様性センター センター長）

大西雅之氏（NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 理事長）

若菜 勇氏（市教育委員会生涯学習部阿寒生涯学習課マリモ研究室室長）

・ロビーイベント

パネル展（世界遺産、阿寒湖の自然とマリモ）、マリモの移動展示（予定）

4 市政懇談会の開催について

- 市長として2期目を迎えて初めてとなる市政懇談会を8月6日（火）から市内15か所で開催（釧路地域12か所、阿寒地域2か所、音別地域1か所）します。
- 市政懇談会では、「2期目を迎えてのまちづくり」について話をさせていただき、釧路市の現状と課題を市民の皆さんと共有したうえで、地域の皆さんからもお話をいただき、今後のまちづくりについて議論を深めたいと考えています。

5 釧路・生命倫理国際シンポジウム 2013 について

- 8月26日（月）から生命倫理に関する2つの国際学会の共催による「釧路・生命倫理国際シンポジウム 2013」が釧路市で開催されます。
- 釧路市での開催は、平成22年から当市で夏、長期滞在されている岡山大学大学院の栗屋剛教授の多大なるご尽力により実現しました。
- 市としては、釧路国際交流ボランティアの会に協力いただき、シンポジウムに出席する外国人を対象に交流事業（交流センター内に英語対応のインフォメーションブースの設置、ホームビジット等）等を実施する予定です。

- また、栗屋教授は期間中の8月30日（金）に、看護学生と一般の方を対象に「生命倫理」をテーマとする講演会を開催する予定となっています。

【釧路・生命倫理国際シンポジウム】

- ・開催期間 平成25年8月28日（水）～8月31日（土）
- ・開催場所 釧路市観光国際交流センター
- ・参加人数 80人（国内48人、海外32人）
- ・主催等 「国際法・倫理・科学学会」と「国際臨床生命倫理学会」の共催

【栗屋剛教授の講演会】

- ・開催日時 平成25年8月30日（金）午後1時30分～3時30分
- ・開催場所 釧路市観光国際交流センター（会場は調整中）

2. 質疑応答

（質問）

- ・ 津波避難計画のパブリックコメントの結果を教えてください。

（市長）

- ・ 意見は、9件ありました。

（質問）

- ・ その意見に関しては市民の声が適切に反映されているということですか。

（市長）

- ・ はい。いただいた意見と反映内容等につきましては、ホームページで公開する予定です。

（質問）

- ・ 18万人の市民に対して意見が9件という結果について、広報のあり方についての考えをお聞かせください。

（市長）

- ・ 件数の問題ではなく、様々な方法でご意見をいただきたいと考えております。パブリックコメントの公開と、地域の中での相談でご意見をいただくという2つの方法を、平行して進めていく予定です。私たちも、現場へ赴き、実際に住民の方々の話し合いをして、進めております。これからの防災懇談会等に向けて情報提供をしていき、市民のみなさんとの対話の中で、防災の意識を高めていくということが、最も重要だと思っております。

(質問)

- ・ キリンについてですが、メスのキリンのどういうことか教えてください。また、羽村市から特別な意向があるのか、お聞かせください。

(市長)

- ・ 『繁殖貸与』とは、国内の中で繁殖を進めるための制度であり、生まれた一頭は、メスの所有権を持つ動物園へいくというルールになっています。一頭目はメスの所有権を持つところへ、二頭目はオスの所有権を持つところへ行く、という制度で、ともに所有している動物の繁殖を進めていく仕組みです。

ただ、キリンの場合は成長すると、運搬が大変困難になるため、1歳くらいが限度だといわれています。現実的には、キリンの貸与というのは大変困難なものです。仕組みとしては、繁殖貸与という方法で、国内の動物を充実させていこうということです。

- ・ 意向というのは時期的に、こういったタイミングで送るのかということです。

(質問)

- ・ 釧路市としては同時期（おびひろ動物園の『スカイ』と）が望ましいということでしょうか。

(市長)

- ・ 導入時期については、現段階では、羽村市とお互いの意向を確認しているという状況で、釧路市側としては、『スカイ』と『コハネ』を10月に一緒に、導入できればと望んでいます。ただ、羽村市動物公園での行事などといった事情もありますので、その中で日程を調整してまいります。

(質問)

- ・ 『コハネ』がくることは内定しているということでしょうか。

(市長)

- ・ そのとおりです。

(質問)

- ・ 確認ですが、繁殖貸与の話を決めたのはチャイルズエンジェルさんなのでしょうか。それとも釧路市なのでしょうか。どこがどのように契約したのかを明確に教えていただきたいです。

(市長)

- ・ 現状では、契約自体の締結はしていないと聞いていますが、内定していると確認

済みです。契約自体は、釧路市動物園がします。

(質問)

- ・ オスの『スカイ』はチャイルズエンジェルさんが購入して、動物園に寄贈。メスの『コハネ』は釧路市動物園が、羽村市動物公園から借りるということでよろしいですね？

(市長)

- ・ そうです。

(質問)

- ・ オスの『スカイ』の搬入時に取材させていただきますか。

(市長)

- ・ 取材に関しては、現段階では判断しがたいです。

(質問)

- ・ 一般公開は環境に慣れるからとのことですが、市民団体から寄贈されたということですので、なんとか取材できるよう、調整をお願いします。

(市長)

- ・ 検討します。

(質問)

- ・ キリンについてですが、繁殖に失敗してしまう可能性もあると思われませんが、貸与期間とはどのように決めているのか教えてください。

(市長)

- ・ 基本的に、期間はありません。
キリンは成長してしまうと輸送が大変困難になってしまい、繁殖が遅い、又はできない、という状況になったとしても、そのままお借りし続けるということになります。譲渡に近い形ですが、子供が生まれた場合は、繁殖貸与の本来のやり方で、子供のキリンをお返しするということになります。
- ・ 一頭目はメス側の所有権を持つ羽村市動物公園に返します。『スカイ』は購入しているので、二頭目は釧路市動物園が引き取るということになっています。

(質問)

- ・ 一頭目は羽村市、二頭目は釧路市ということよろしいですか？

(市長)

- ・ はい、そうです。

(質問)

- ・ 羽村市からくる『コハネ』の件について、金銭のやり取りはあるのか、教えてください。

(市長)

- ・ ブリーディング・ローンですので、金銭のやり取りはありません。

(質問)

- ・ おびひろ動物園の『スカイ』は購入で、羽村市動物公園の『コハネ』は借りるということですね。

(市長)

- ・ 複雑のように見えて、複雑ではありません。
例えば、2箇所動物園からキリンを、一頭ずつ借りるとしましょう。その場合、子供が生まれると、両方の動物園に返していくことになり、釧路市動物園は繁殖するだけの場所になってしまいます。ですので、どちらかの所有権を持っておくということが必要になります。元々、ブリーディング・ローンは国内の動物を充実させることが目的ですので、おびひろ動物園からは購入、羽村市動物公園からは貸与、という形をとりました。

(質問)

- ・ 改めて、キリンを購入したチャイルズエンジェルさんと市の両方交えての記者会見はあるのでしょうか。

(市長)

- ・ チャイルズエンジェルさんは動物園にキリンを送ろうと募金活動を進め、『スカイ』を購入することができました。メスについては、釧路市動物園で進めて、ブリーディング・ローンにたどり着きました。
今のところは、特に一緒に会見をするという予定はありませんが、絵本についての発表もあると思いますし、市とチャイルズエンジェルさんで話し合いながら予定していこうと考えています。

(質問)

- ・ 現状では、市の動きと、チャイルズエンジェルさんの動きがバラバラで、発表の仕方も別になっている状態になっています。どの時点でどのようなものが、お互い

に正式に決定しているのかが判断し難いです。お披露目できるときに結果をまとめて発表するなどといった予定はないのか教えてください。

(市長)

- ・ メスについては、内定の段階ですし、すべてが決定したときに、同時に発表することについて、また相談していきたいと思います。

(質問)

- ・ 津波避難計画についてですが、明日には防災会議を行って、19日にはハザードマップを全戸配布するということは、万が一修正が加わった場合、修正可能なのか教えてください。

また、住民説明会はハザードマップの配布後の開催ですが、防災会議で決定する前の段階で、住民説明会が設定されるべきだったと思いますが、考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ 住民説明会は、東日本大震災後から、数回にわたって行ってまいりました。
基本的には、ハザードマップでは、避難場所と、どの程度の津波がくるのかという高さ等の情報と、併せて避難する場所があるのかということが重視されると思っています。住民の方々からの意見を参考にハザードマップに起こし、防災会議にかけて、専門家の方々に見ていただき、また、市民の方々と相談して現実的な対応等を把握しながら、進めているところです。

(質問)

- ・ 作成時の意見聴取と、決定してからもう一度説明するということは、受け止め方が違い、地図に反映されていたというときは、まさにそこが逃げる場所だということをしっかりと認識しなければならないと思います。その避難場所で本当にいいのか、という確認のための住民説明会というのがあってもよかったのではないのかと考えられますが考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ 確かにそうですね。手段的にはそうだと思います。
実はこの津波ハザードマップは、道の津波シミュレーションに向けて、作成しているものです。ところが、約2年後に国の中央防災会議における、シミュレーションが出てくるということになっております。つまり、道とは別に、国はシミュレーションを行うということになります。
国のシミュレーションが出るまで何もしないわけにはいきません。まず現状の中でどうしていくのか。全体的なハザードマップを作り、それから、避難困難地域の

中に入っていった、相談していきましようという形で進めていく予定ですので、当然、津波ハザードマップにも修正部分がでてきます。皆さんと議論をしながら、地域の安心安全を前提に進めています。

(質問)

- ・ 私は、よく考えて作成されていると思います。で、あればもっと住民に、段取りを説明するなどといったアプローチもしていった方がよいのではと考えますが、市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ 最終的には、作ればいい、ということではなく、どれだけの市民の方々の意識を高めていくことができるのかが重要になりますので、説明会を行い、訓練を行い、しっかりとよい形で進めていきたいと思っていますので、今後ともご指導の方をよろしくお願いします。

(質問)

- ・ 釧路・生命倫理国際シンポジウム 2013 についてですが、このようなシンポジウムが開催されることを改めてどう思っているのかお聞かせください。また、今後、このような動きを市から仕掛けていくようなことを考えているのかもお聞かせください。

(市長)

- ・ 栗屋先生からは、釧路の気候の素晴らしさ、快適さを絶賛していただきまして、昨年も外国から数人の講師の方々を呼んで、「釧路は本当に素晴らしいところだ」という話をし、釧路で学会を開こうという予備的なことまで行ってくださっています。そういった意味では本当にありがたく思っております。栗屋先生は毎年1ヶ月は釧路に滞在されますが、釧路の素晴らしさ、魅力をたくさんPRしていただき、シンポジウムまで結びつけていただいたことは、大変感謝の気持ちでいっぱいです。

長期滞在事業を進めていく中で、今までなかなか地域の中では触れることのできない方々と交流するということは、新しい知識を勉強するという機会にもなります。そして、他の地域の方々から聞いた釧路の良さも改めて認識できるという二重の効果があると思います。

他の地域では市民参加型のお祭りは少ないらしく、今回も長期滞在をしている皆さんにお祭りに参加していただいて、喜んでいただきました。私たちの中では当たり前のことが、実は他の地域から見ると、大変珍しいことであるということが様々な分野で出てくると思います。

基本的には研究会の方々がいらしていますので、その方々が持っているスキルや特性などを交流しながら学び、次なる事業に生かせることができればよいと思いま

す。そういった意味では素晴らしい例ができたなど、思っています。

(質問)

- ・ JRでは、トラブルが続いているようですが、改めて、経済、観光含め、どのような影響があると思われるかお聞かせください。

(市長)

- ・ JRは大量輸送手段のひとつであり、道民のアクセスに対して、特に釧路にとって大きなダメージだと思っています。JRに課せられた役割をきちんと果たしていただきたいです。やはり信頼性、安全性、定時性が一番重要ではないかと考えています。

日本の面積の中で、北海道が一番広いわけですが、広いが故のデメリットというものを、非常に感じていました。そういった中で、高速化、時間の短縮化等は常に求められていると思います。利便性は高まっていますが、もう一度、原点に戻って、安全性を確保することと、いかにこの北海道内のアクセスの重要な役割であるということに改めて、認識したうえで対応していただきたいと強く思っています。

(質問)

- ・ やはり観光経済への影響は大きいとお考えですか。

(市長)

- ・ その通りです。